

製品名: GPRC5B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11713**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	GPRC5B
別名	GPRC5B; RAIG2; G-protein coupled receptor family C group 5 member B; A-69G12.1; Retinoic acid-induced gene 2 protein; RAIG-2
遺伝子 ID	51704.0
SwissProt ID	Q9NZH0
免疫原	抗血清はヒト GPRC5B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

背景

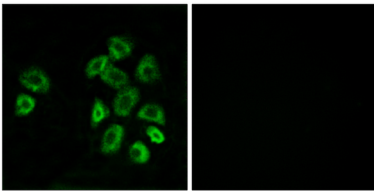
この遺伝子は、3型 G タンパク質共役受容体ファミリーのメンバーをコードしています。このスーパーファミリーのメンバーは、7つ

の膜貫通ドメインモチーフを特徴としています。コードされているタンパク質はインスリン分泌を調節する可能性があり、タンパク質発現の増加は2型糖尿病と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2015年2月];注意: Met-1とMet-9のどちらがイニシエーターであるかは不明です。機能: 不明。このレチノイン酸誘導性Gタンパク質共役受容体は、レチノイドとGタンパク質シグナル伝達経路間の相互作用の可能性の証拠を提供します。誘導: オールトランスレチノイン酸(ATRA)による。類似性: Gタンパク質共役受容体3ファミリーに属します。細胞内位置: 細胞膜と核周囲小胞に局在します。組織特異性: 腎臓、膵臓、精巣では発現が高く、脳、心臓、前立腺、小腸、脾臓では中程度、肝臓、胎盤、骨格筋、結腸、卵巣、胸腺では発現が低く、肺と末梢白血球では検出されません。PubMed:10945465によると、検査されたほとんどの脳領域で高い発現が見られ、特に脳梁、尾状核、被殻、黒質、視床、海馬、脊髄、そして後根神経節(DRG)で最も高い発現が観察されました。末梢では中枢神経系と比較して発現レベルは比較的低く、膵臓、精巣、子宮、胃で最も強い発現が見られました。

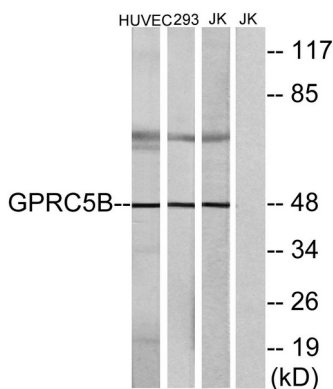
研究分野

神経科学

画像データ



GPRC5B抗体を用いたMCF7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



GPRC5B抗体を用いたJurkat細胞、HUVEC細胞、および293細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。